

長崎県は、全国で最も多くの「しま」を有する県です。それぞれの「しま」には、その土地にしかない、美しい自然、豊かな歴史、そして温かい人々の営みがあります。長崎県の宝である「しま」のことを知り、思いを馳せることを県民の一人として大切に、「しま」とのつながりも含めて、私たちの長崎県があることを誇りにしたいものです。

シリーズ2は対馬市にスポットを当てました。対馬市は古代から大陸とのつながりが深く、人との往来とともに様々な文化が行き来した歴史を持ちます。また、対馬は大陸系と南方系の動植物などが入り交じって生息している貴重な島です。

<対馬市の位置>



【対馬に息づく歴史と文化】

<和多都美神社>

浅茅湾の最奥部に鎮座する古社で、祭神は日本神話に登場する山幸彦と豊玉姫です。秋の大潮にあわせて古式大祭が行われ、中世に起源をもつ「命婦の舞」が奉納されます。



(提供:対馬観光物産協会)

<石屋根>

衣類・穀物などの貴重品を管理するため、屋根を板状の岩でふいた高床倉庫です。強風や火災にも強い対馬独自の農村建築物ですが、近年、数を減らしています。



(提供:対馬市)



(提供:対馬市)

<金田城>

663年の「白村江の戦い」に敗れた倭国が、唐・新羅の侵攻に備え、国防の最前線として築いた古代山城です。築造は667年(日本書紀)で、国の特別史跡に指定されています。

<豊砲台跡>

対馬～朝鮮半島の制海権を確実にするため、軍艦「赤城」(諸説あり)の40.6cmキャノン砲を対馬北部の豊(とよ)に移設した。1934年の完成当時、世界最大級の巨砲でした。



(提供:対馬観光物産協会)

<万関橋>

明治後期、旧大日本帝国海軍はロシアとの決戦に備え、対馬の東西海峡をつなぐ万関瀬戸を開削しました。現在の赤い鉄橋は1996年に架け替えられた三代目で、眼科に雄大な景観を楽しめます。



(提供:長崎県対馬歴史研究センター)

【大陸から伝えられた仏教文物】

対馬には、これまで 128 体の渡来仏（中国や朝鮮半島から渡来した仏像）の存在が確認されています。そのうち、朝鮮半島でつくられたものが 113 体、中国でつくられたものが 15 体です。我が国において 100 体以上の渡来仏が集中する地域は、対馬以外にはありません。仏像以外にも多くの仏教に関連する文物が伝えられています。

菩薩坐像 14 世紀
多久頭魂(たくずたま)神社



涅槃図 15~16 世紀
醴泉(れいせん)院



(提供:長崎県対馬歴史研究センター)

【生物分布の十字路】

対馬はおよそ 1 万年前まで朝鮮半島と陸続きであったといわれています。そのとき、大陸の生物は南へ、日本列島の生物は北へと対馬を通して移動したと考えられています。その名残が今も対馬の生物に見られます。



ツシマヤマネコ (提供:対馬市)

ツシマヤマネコは対馬にだけ生息する野生のネコで、約 10 万年前に大陸から渡って来たと考えられています。1971 年に国の天然記念物に指定されています。



ツシマテン (提供:対馬市)

ツシマテンは対馬にのみ生息し、本州、四国、九州、朝鮮半島に分布するテンの亜種とされています。体の大きさは 40~48cm、しっぽの長さは 17~19cm でオスの方がメスよりも大型です。1971 年に国の天然記念物に指定されています。

チョウセンヤマツツジ
(提供:対馬観光物産協会)

日本では対馬のみ、外国では朝鮮半島に自生するツツジの仲間です。

